

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、若年層における交際相手からの暴力（デートDV）に関する意識や実態を把握し、「さいたま市DV防止基本計画」の改定（平成27年度）および今後の市のDV防止施策の推進に反映させるための基礎資料とすることを目的として実施しました。平成21年度調査に続き、今回で2回目の調査となります。

2 調査設計

（1）調査対象者

さいたま市内高等学校（8校）、市内大学（3校）の生徒および学生

（2）調査方法

各学校に対して個別に協力要請を行い、協力校に対して調査票および回収用封筒の配布・回収を行いました。

調査票の回収については、生徒および学生自らが回収用封筒に封入・封緘することで、回答内容が本人以外の目に触れないよう配慮しました。

（3）調査期間

平成26年7月から9月

（4）調査内容

- ア 暴力に対する認識について
- イ 男女平等に関する意識について
- ウ デートDVの実態について
- エ デートDVの発生要因について
- オ 暴力の見聞きについて
- カ デートDVの防止について

3 回収状況

	配布数(票)	回収数(票)	回収率(%)	有効回答(票)	有効回収率(%)
高校	1,859	1,858	99.9	1,832	98.6
大学	939	782	83.3	751	80.0
合計	2,798	2,640	94.4	2,611 ※1	93.3

※1 学年が無回答のもの28票を含む。

4 報告書の見方

- ・ 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると100%を超えることがあります。
- ・ 回答の比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入により端数処理しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が、合計欄の数値と一致しないことがあります。
- ・ 各設問において、性別など調査対象者の基本属性にかかわる図・表については、基本属性に「無回答」があるため、全体の数値と一致しません。
- ・ 図表中の「n」の数値は回答者数を、小数点の数値は百分率(%)を表しています。また「-」は回答者がいないもの、「0.0」は表章単位に満たないが、回答者がいるものを表しています。さらに、設問の進行上、その設問に回答しなくてもよい人がいるため、設問によって回答者数が変わることがあります。
- ・ 分類で「高校生」は高校生のみで、「大学生」には大学生と大学院生が含まれています。
- ・ 設問で尋ねている暴力の行為については、以下のように4つの暴力に分類しています。

身体的暴力	「たたいたり、けったりする」 「物でなぐったり、物を投げつける」
精神的暴力	「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」 「LINE(ライン)やFacebook(フェイスブック)などのSNS(ソーシャルネットワークサービス)を執拗に監視したり制限する」※2 「常に自分の行動を報告させるように命じる」 「人前でバカにしたり、ののしったりする」 「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」 「何を言っても、無視をする」
性的暴行	「性的な行為を無理やりする」 「避妊に協力しない」
経済的暴力	「デート代やお金を無理やり出させる」

※2 今回調査で新設。以下、「LINEやFacebookなどのSNSを執拗に監視したり制限する」と表記。

5 回答者の基本属性

(1) 性別

	男性	女性	無回答
平成26年度調査 (n=2,611)	41.0% (n=1,070)	54.9% (n=1,434)	4.1% (n=107)
平成21年度調査 (n=2,799)	46.6% (n=1,305)	50.4% (n=1,410)	3.0% (n=84)

性別では、男性が41.0%、女性が54.9%と、女性が13.9ポイント上回っています。

(2) 学年

	高校生 (小計)	高校1年生	高校2年生	高校3年生
平成26年度調査 (n=2,611)	70.2% (n=1,832)	23.9% (n=625)	24.1% (n=628)	22.2% (n=579)
平成21年度調査 (n=2,799)	67.8% (n=1,898)	21.6% (n=605)	20.4% (n=570)	25.8% (n=723)

	大学生 (小計)	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生 以上	学年が無回答
平成26年度調査 (n=2,611)	28.8% (n=751)	9.4% (n=246)	7.5% (n=196)	8.5% (n=222)	3.3% (n=87)	1.1% (n=28)
平成21年度調査 (n=2,799)	28.8% (n=807)	8.3% (n=232)	17.1% (n=480)	2.9% (n=81)	0.5% (n=14)	3.4% (n=94)

回答者全体のうち、高校生は70.2%、大学生は28.8%となっています。

(3) 年齢

	10代 (小計)	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳
平成26年度調査 (n=2,611)	81.1% (n=2,117)	16.5% (n=431)	21.2% (n=553)	23.5% (n=614)	11.9% (n=311)	8.0% (n=208)
平成21年度調査 (n=2,799)	78.6% (n=2,201)	7.2% (n=202)	21.5% (n=602)	21.7% (n=607)	19.3% (n=540)	8.9% (n=250)

20代 (小計)	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳以上	年齢が 無回答
14.7% (n=384)	7.4% (n=194)	4.0% (n=105)	1.6% (n=43)	0.7% (n=17)	0.4% (n=10)	0.6% (n=15)	4.2% (n=110)
18.1% (n=508)	12.2% (n=342)	3.2% (n=90)	0.5% (n=14)	0.4% (n=10)	0.5% (n=14)	1.4% (n=38)	3.2% (n=90)

年齢別では、17歳が23.5%と最も多く、次いで16歳が21.2%となっています。回答者全体のうち、10代は81.1%となっています。

(4) 現在の住所

	さいたま市	その他	無回答
平成26年度調査 (n=2,611)	45.5% (n=1,187)	50.5% (n=1,318)	4.1% (n=106)
平成21年度調査 (n=2,799)	53.3% (n=1,493)	43.6% (n=1,219)	3.1% (n=87)

さいたま市に住んでいる回答者は45.5%となっています。

6 他調査との比較について

(1) さいたま市「若年層における交際相手からの暴力(デートDV)に関する意識・実態調査(平成21年度)」	
対 象	さいたま市内高等学校(8校)、市内専門学校・市内大学(4校)の生徒および学生
調査方法	各学校を通じた配布・回収(生徒および学生自身が封入・封緘)
調査期間	平成21年11月9日～12月11日
回収状況	有効回収率97.8%(高等学校98.7%、専門学校・大学95.8%)
(2) さいたま市「男女共同参画に関する市民意識調査(平成23年度)」	
対 象	市内在住の満20歳以上の男女5,000人
調査方法	郵送配布、郵送回収(礼状兼督促状1回送付)
調査期間	平成23年8月3日～8月26日
回収状況	有効回収率48.2%(女性43.1%、男性32.1%)
(3) 内閣府「女性の活躍促進に関する世論調査(平成26年度)」	
対 象	全国20歳以上の日本国籍を有する者5,000人
調査方法	調査員による個別面接聴取
調査期間	平成26年8月28日～9月14日
回収状況	有効回収率60.7%(女性64.9%、男性56.2%)

7 調査結果の傾向

(1) 暴力に対する認識について

① 「DV」および「デートDV」という言葉と内容の認知度について

●「デートDV」の認知度は大幅に増加（問1：p.15～p.17）

言葉を「知っている」と回答した割合は、「DV」95.4%に対し、「デートDV」は59.4%となっています。内容についても「知っている」と回答した割合は「DV」89.7%に対し、「デートDV」は47.9%となっています。平成21年度調査と比較すると、「DV」の言葉や内容の認知度には大きな変化はみられませんが、「デートDV」の言葉を「知っている」と回答した割合は24.2%→59.4%、デートDVの内容を「知っている」と回答した割合は20.0%→47.9%と、デートDVの認知度は大きく増加しています。

② 暴力の認識について

●精神的暴力は、暴力の内容によって認識に差がみられる（問2：p.18）

身体的暴力、性的暴力、経済的暴力については、「暴力だと思う」と回答した割合が75%を超えており、暴力としての認識が高い結果となっています。精神的暴力の項目では、暴力の認識に差がみられ、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」は88.0%と高くなっている一方、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」は35.8%となっており、項目間での認識に違いがみられます。

●平成21年度調査と比較すると、全ての項目で暴力の認識が増加している

（問2：p.19～p.29）

身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力の全ての項目について、平成21年度調査と比較すると「暴力だと思う」と回答した割合が増加しています。特に、精神的暴力では、「思い通りにならないと、怒鳴ったり、脅したりする」を除いた項目で10ポイント以上の増加となっています。

③ 暴力に関する相談先の認知度について

●平成21年度調査から変化はなく、警察署が最も知られている（問3：p.30）

交際相手からの暴力に関することを相談できる場所を聞いたところ、全体の46.2%が相談先を「1つも知らない」と回答しており、これは平成21年度調査とほぼ同様の結果となっています。また、知っている相談先としては、「最寄りの警察署」が40.8%と最も多く挙げられています。

(2) 男女平等に関する意識について

① 男女平等に関する意識について

●「男性は女性を守るべきだ」については4人に3人が賛成（問4：p.33）

男女平等に関する意識について尋ねた4つの項目の中で、『反対』（「反対」＋「どちらかといえば反対」の合計）が『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」の合計）を上回るのは、「男性は外で働いて、女性は家庭を守るべきだ」、「女性は結婚したら、自分のことよりも家庭のことを優先して考えるべきだ」、「女性は男性の言うことをきくべきだ」となっています。一方、「男性は女性を守るべきだ」という考え方については、『賛成』（75.1%）が『反対』（9.7%）を大きく上回っています。

●『賛成』が減少傾向、男女や年代に意識差も（問4：p.34～p.38）

男女平等に関する項目について、平成21年度調査と比較すると、いずれの項目も『賛成』が減少傾向にあります。また、いずれの項目でも男女の意識差がみられ、高校生と大学生にも意識差がみられます。

(3) デートDVの実態について

① 交際相手からの暴力（デートDV）の被害経験について

●携帯電話やスマートフォンによる精神的暴力が多い（問6：p.40）

デートDVの被害経験は、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」が12.7%、「LINEやFacebookなどのSNSを執拗に監視したり制限する」が10.0%と、携帯電話やスマートフォンによる精神的暴力が多くなっています。

●性的暴力や精神的暴力の被害経験が特に女性に多い（問6：p.41）

ほぼ全ての項目で、女性の被害経験が男性を上回り、特に差が大きい項目は、性的暴力や精神的暴力となっており、「性的な行為を無理やりする」（女性6.0%、男性2.2%）、「避妊に協力しない」（女性6.4%、男性2.2%）、「LINEやFacebookなどのSNSを執拗に監視したり制限する」（女性12.4%、男性6.4%）、「常に自分の行動を報告させるように命じる」（女性8.9%、男性4.4%）となっています。

●**高校生よりも大学生で被害経験は多い**（問6：p.41）

全ての項目について、大学生の被害経験が高校生を上回っています。特に「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（高校生 8.7%、大学生 19.1%）、「LINE や Facebook などの SNS を執拗に監視したり制限する」（高校生 7.2%、大学生 14.3%）、「人前でバカにしたり、ののしったりする」（高校生 5.4%、大学生 13.5%）といった精神的暴力や、「たたいたり、けったりする」（高校生 3.9%、大学生 11.8%）といった身体的暴力において、高校生と大学生の差が大きくなっています

●**被害経験は「3人に1人」から「4人に1人」に**（問6：p.43）

デートDVの被害経験が「ある」と回答した割合は、26.6%となっており、平成21年度調査と比較すると、32.2%→26.6%と減少しています。男女別では、女性が30.5%で、男性が20.4%となっており、女性の被害経験が高くなっています。年代別では、高校生が19.6%、大学生が37.7%となっており、大学生の被害経験が高くなっています

② **被害を受けた後の交際について**

●**「別れたいとは思わない」は減少し半数を割る**（問7-1：p.44）

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人（291人）に、被害を受けた後の交際について聞いたところ、「相手と別れた」が25.8%、「別れたいと思ったが別れなかった」が24.7%、「別れたいとは思わなかった」が39.5%となっています。平成21年度調査と比較すると、「別れたいとは思わなかった」と回答した割合は53.1%→39.5%と減少しています。

③ **別れなかった理由について**

●**「嫌だったけど、いいところもあるから」が最も多い**（問7-2：p.45）

デートDVの被害を受けた後「別れたいと思ったが別れなかった」と回答した人（72人）にその理由を聞いたところ、「嫌だったけど、いいところもあるから」（59.7%）、「いつもさされているわけじゃなかったから」（58.3%）、「好きだったから」（44.4%）などが理由として挙げられています。

④ **被害が及ぼした影響について**

●**なんらかの影響があった人は3人に1人**（問8：p.47）

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人（291人）に、被害経験が及ぼした影響を聞いたところ、「精神的に落ち着かなくなった」（21.3%）、「恋愛をすることが怖くなった」（12.7%）、「自分はだめな人間だと思うようになった」（12.0%）、「体の調子が悪くなった」（11.0%）などが挙げられています。また「特に変化はない」は56.0%となっています。なお、被害経験が及ぼした影響のうち、一つでも選択した人は34.7%となっています

⑤ 被害の相談先について

●「友人や知人に相談」、「誰にも相談しない」に男女差（問9-1：p.50）

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人（291人）に、相談先を聞いたところ、「友人や知人に相談した」が46.7%と最も多く、大きく離れて「家族や親戚に相談した」（8.2%）などが挙げられています。一方、「どこにも・誰にも相談しなかった」は42.3%となっています。女性の半数以上が「友人や知人に相談した」、男性の半数以上が「どこにも・誰にも相談しなかった」と回答しており、男女に大きな違いがみられます。

⑥ どこにも・誰にも相談しなかった理由について

●「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多い（問9-2：p.52）

デートDVの被害経験が「ある」と回答した人のうち、暴力の被害について「どこにも・誰にも相談しなかった」と回答した人（123人）に、その理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が67.5%と最も多く、以下、「自分にも悪いところがあると思ったから」（17.9%）、「自分で解決しようと思ったから」（16.3%）、「愛情表現だと思ったから」（15.4%）などが理由と挙げられています。

⑦ 交際相手への加害経験について

●「たたいたり、けったりする」、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」経験が多い（問10：p.55）

交際相手がいると回答した人（1,096人）に、加害経験を聞いたところ、「たたいたり、けったりする」（5.9%）、「携帯電話の着信・発信履歴やメールのチェックをする」（5.9%）、「何を言っても、無視をする」（3.4%）などが挙げられています。

●加害経験は減少傾向も、交際相手がいる人の1割強が経験有（問10：p.57）

交際相手に対して、デートDVの加害経験があると回答した割合は、交際相手がいると回答した人（1,096人）のうち13.8%となっており、平成21年度調査と比較すると、18.3%→13.8%と減少しています。男女別では、大きな差はみられず、年代別では、加害経験があると回答した割合は、高校生（7.9%）より大学生（22.9%）で高くなっています。

(4) デートDVの発生要因について

① 加害行為の理由について

●「相手が自分を怒らせたから」が最も多い（問11：p.58）

交際相手に対して、デートDVの加害経験があると回答した人（151人）に、加害行為の理由を聞いたところ、「相手が自分を怒らせたから」（29.8%）、「相手の愛情を確かめたかったから」（23.2%）、「イライラしていたから」（19.2%）などが理由と挙げられています。

② 暴力をふるう可能性がある状況について

●約半数が暴力をふるう可能性がある（問12：p.61）

交際相手に対して、デートDVの加害経験がないと回答した人（921人）に、今後の暴力行為の可能性を聞いたところ、「暴力をふるうことはない」（52.4%）と「暴力行為の可能性のうち一つでも選択した人」（49.0%）は、ともに約半数となっています。平成21年度調査と比較すると、「暴力行為の可能性のうち一つでも選択した人」は、55.6%→49.0%と減少しています。

(5) 暴力の見聞きについて

① 暴力の見聞きについて

●暴力の見聞きの割合は減少傾向（問13：p.64）

暴力の見聞きについて聞いたところ、「一つでも暴力を見聞きしたことがある」と回答した割合は41.9%となっており、平成21年度調査と比較すると、55.1%→41.9%と減少し、約4割程度となっています。

(6) デートDVの防止について

① デートDVの防止について

●「交際相手と日頃からお互いのことについて話し合う」が最も多い（問14：p.67）

デートDV防止のために必要だと思うものについて聞いたところ、「交際相手と日ごろからお互いのことについて話し合う」が60.4%と最も多く、次いで「すぐにでも相談できるように、身近な相談窓口を増やす」（45.6%）、「暴力をふるった者に対し、罰則を強化する」（35.5%）などが必要だと思われています。